

農業も、

人生も、

「あめのちはれ」



Coleman

Midrist Vol.6

あめのちはれ・勝田大樹さん、美保さん（富山県南砺市）

秋の訪れを告げる9月の風を感じながら、金沢から五箇山方面に車を走らせること約1時間。辺り一面に黄金色の稲穂が揺れ、棚田が永遠に続くかのようにも見える、のどかな田園地帯。ここは富山県南砺市。ユネスコ世界文化遺産に登録された、合掌造りが有名な五箇山地区を抱える地域であり、富山県で初めてオーガニックビレッジ宣言を行うなど、有機農業の先進地域でもある。五箇山方面に続く坂を登ると、見えてきたのは、この地域の伝統建築である吾妻建ち家屋の古民家。ここが今日紹介する「みどりすと」、勝田ご夫婦の営む直売所だ。

8年前、大阪から富山県南砺市に夫婦で移住した勝田ご夫婦。小高い丘の上で、柿40アール、ぶどう(16品種)40アールを栽培し、柿は干し柿として、ぶどうは生食用として直売所やオンラインショップで販売している。元々、夫の大樹さんは美容師を営み、妻の美保さんは高級スーパーの小売店で勤めていた。お二人とも東大阪の工業地帯で生まれ育つ中で、田舎でのどかな生活にあこがれを抱いていた。

「高級スーパーで勤めていたんですが、販売している商品のことを何も知らないことに気づいて。商品の背景や生産の過程をもっと知りたいという思いが芽生えたんです。」美保さんの強い希望もあって、夫婦で参加した地方移住ツアー。ツアーの中で、「ここに住みたい」と美保さんが強く感じたのが、今お二人の住む富山県南砺市だった。「移住にあたって、一番心配していたのが地元の皆さんに受け入れてもらえるかということだったのですが、この地域の皆さんは私たちの挑戦を温かく応援してくださって。就農にあたって、空き家や農地も地域のつながりの中で紹介していただきました。」

そんな夫婦の挑戦は、こだわりの土づくりから始まった。「肥料として、

富山湾で獲れたイワシを丸ごと使った、ミネラルやアミノ酸豊富な有機質肥料を使っています。除草剤や化学肥料は使用していません。土壌診断を元に有機質肥料や堆肥を使用し、果樹に適した土づくりをしています。土づくりにこだわることぶどうが甘くなるし、味わい深くなるんです。」夫婦こだわりのぶどうを一粒いただくと、ふわっと甘い香りが鼻から抜けるとともに、じゅわっと果汁が溢れた。

「私の師匠も土づくりにこだわりの持った方だったので、慣行栽培をするという発想はなかったですね。」と大樹さんは語る。昨年には農林水産省のみえるらべる(※)にも登録し、温室効果ガス削減への貢献について、最高レベルの星3つを獲得。「やっぱり買いに来ていただく皆さんには、健康なぶどうを味わってほしくて。」そう語る大樹さんの笑みがこぼれる。

※環境負荷低減の取組を見える化するための等級ラベル





ぶどう栽培の中で、大樹さんのキャリアが思わぬ形で光る場面があった。ぶどう栽培では、房の形を形成するため、不要な粒を一つ一つ摘出する「摘粒作業」がある。繊細なハサミさばきが求められるが、その中で大樹さんの美容師としての腕が光った。「細かい作業も苦にならないですし、手間がかかる分楽しいと感じますね。ぶどうの一つ一つがお客様のようには思えてきて、お客様と向き合いながら丁寧に仕上げていくような感覚です。まさか美容師としての経験がこういう形で発揮されるとは」と大樹さんははにかむ。



夫婦には、今年7歳になる息子さんがいる。「農業を始めて、家族との時間も圧倒的に取りやすくなったと感じています。美容師をしていた頃は朝早くから開店の準備をし、閉店作業を終えて帰宅できるのは夜22時過ぎだったので、家族との時間は全くとってはいほど取れなかったですね。農業を始めてから、5、6月のぶどうの栽培時期は忙しいですが、秋のぶどうの販売シーズンは水曜定休にしていますし、冬の期間は晴れた日にだけ仕事をすると決めていたので。」

ぶどう畑の片隅には、秋風に揺れるハンモックと遊具があった。「息子がこの場所でよく遊んだり寝たりしていますよ」と大樹さんは話す。

ぶどう畑の中は木陰になっており、ひととき涼しく感じられた。川のせせらぎを聴きながら、砺波平野を見下ろすことのできるその場所は、とっておきの特等席のように思えた。

最後に「あめのちはれ」という屋号の由来を伺った。「作物にとって、『雨』も『晴れ』もどちらも大切なんですが、それって人生も同じだと思うんです。雨が降ることがあっても、いつかまた晴れる。『雨』の時期も『晴れ』の時期もどちらも人生にとって大切な時間。そんな思いを込めました。ひらがなで表記することで、皆さんからも覚えやすいと言っていたことができました。『雨』と『晴れ』と美保さんが笑顔を見せる。農業も、人生も、「あめのちはれ」。勝田夫婦の挑戦は、今日も続く。





DATA【あめのちはれ】

場主：勝田 大樹・美保

農法：除草剤・化学肥料不使用

品目：ぶどう(16品種)、柿(干し柿)



AMENOCHIHARE.G_DP

Instagram:
@amenochihare.g_dp



【直売所】

富山県南砺市大鋸屋1-3
城端線城端駅から車で5分
加越能バス 大鋸屋から徒歩3分
営業時間 09:00～17:00



Writer: 野島